令和３年度（2021 年度）建築作品賞は今年１月から３月まで募集を行い、５点の応募があった。４月９日に開催した選考委員会（委員長＝土本俊和信州大学工学部教授）での審査の結果、最優秀賞には一般建築部門（延床面積 1000㎡超１万㎡以下）で「池田町交流センターかえで」（設計＝アーキディアック）、小規模建築部門（延床面積 1000㎡未満、戸建住宅を含む）で「小林古径記念美術館」（設計＝宮本忠長建築設計事務所）が選ばれた（４面に掲載）。最優秀賞に選ばれた２点は、日事連建築賞に出展される。

同賞は毎年、すぐれた建築作品を設計した建築士事務所を表彰することで建築士事務所の資質向上に資することを目的として開催するもので、今回で 23 回目となる。

今回、最優秀賞に選ばれた２点のほか「むつみ家もものき保育園」（設計＝関建築とまち研究室）、「STARRY Residence　Suite」（設計＝横内建築設計事務所）、「若葉保育園・秋葉保育園」（設計＝エーシーエ設計）の３点も選考委員会で高い評価がなされ、優秀賞に選ばれている。

## 講　評

**むつみ家もものき保育園**

この施設は住宅地に計画された０～２歳の小さな子供たちを預かる小規模な保育園です。外観は周辺の街並みに合うようにボリューム感や素材を抑制した落ち着いたデザインでまとめられて好感が持てます。

平面計画において２階のテラスが安全な子供たちの遊び場として機能し、内部空間は県産材の木材を使い準耐火建築物を満たすため『燃え代設計』を行って、子供たちが木肌に実際に触れることでぬくもりを感じられるようによく計画された作品です。

**STARRY Residence Suite**

長野県を代表するスキー場の一つ、白馬八方尾根スキー場の国際ゲレンデに佇む長期滞在にも対応できる様構成された建物です。

傾斜地ならではの敷地形状を利用した、ゲレンデレベルからのスキーIN・スキーOUTを可能とする各層の配置計画及び、駐車スペースへのロードヒーティング、屋根へのヒーター設置など、豪雪地ならではの自然環境への対応も丁寧に考慮されております。日常生活を離れ、長期滞在してみたくなるような建物になっていると思われます。

**若葉保育園・秋葉保育園**

夜間の保育園と通常の保育園の二つの園を、一つの建物として構成、保育時間の違いを利用して、共用スペースを有効的に使用し、変形敷地に合わせたプランは、コスト的にも優れている。一つの大屋根で纏めた外観は、園庭の桜の樹と共に地域のシンボルとして、受け入れられている建物です。

## 優秀賞　むつみ家もものき保育園

長野市郊外に立地する地域型小規模保育園である。近くの大規模商業施設などで働く若いママ（あるいはパパ）たちが通勤途中であわただしく幼い子どもを預けていく毎朝の風景。そうした気忙しい状況に対する効率的な動線処理や初めて体験する集団生活空間に考慮し、安心安全で遊べる空中ひだまりテラスを上階に設けた。

県産材を多用した木造建築で、これから人生を歩み始める子どもたちの柔らかな感受性や記憶に働きかけるように、木材の「見える化＆さわれる化」を意識し、燃え代部材を使用し、木肌表面積を大きくしてテクスチャーを活かしたインテリアとした。外観はコンパクトなデザインとして、周辺の家並みにつながることを考えた。

■建設地:長野市篠ノ井杵淵字大門東1306,1307,1308番地
■構造規模:木造2階建て、延べ291.91㎡
■竣工年月:令和1年10月

■設計
㈲関建築とまち研究室
代表取締役　関　邦則
長野市西長野2-4　TEL 026-233-5566　FAX 026-233-5567

■施工
千広建設株式会社
代表取締役　新井精一
長野市篠ノ井布施高田370-1　TEL.026-292-1354

## 優秀賞　STARRY Residence Suite

国内外から人気のある、白馬八方尾根スキー場の国際ゲレンデサイドに佇む「STARRY Residence Suite」は、ゲレンデから直接スキーIN、スキーOUTが可能な宿泊施設になっています。ゲレンデの一部であった建設地の造成範囲を最小限に抑えることで、白馬村の雄大な景観を損ねることなく、春夏秋冬どの季節にも溶け込むような建物に仕上げ、長期滞在ができるようなつくりとしました。

１階は照明と色彩を部屋ごとに変えて個性を演出しました。全体的にスタイリッシュに仕上げた２階は、ゲレンデレベルからのスキーIN、スキーOUTが可能となっています。奥行きのあるプライベートバルコニーを設けた３階は、優雅な時間、開放的な空間を演出しました。

「STARRY Residence Suite」が、スキーリゾート文化における新しいホテルの利用形態としての起爆剤となり、グローバルで万人に愛されるような宿泊施設であってほしいと思います。

■建設地:北安曇郡白馬村大字北城字谷地原4269-1、4270-1、4270-2、4271-1、4274-1
■構造規模:鉄骨造3階建て、延べ594.75㎡
■竣工年月:2018年12月

■設計
有限会社　横内建築設計事務所
代表取締役　太田匡樹
松本市島立1814　TEL.0263-47-5662

■施工
株式会社　守谷商会
代表取締役社長　吉澤浩一郎
長野市南千歳町878　TEL.026-226-0111

## 優秀賞　若葉保育園・秋葉保育園

夜間保育を行う若葉保育園と、秋葉保育園の２つの園が共用する園舎です。２つの園の異なる保育時間に対応しつつスペースを有効に活用するため、「大屋根の下の２つの園」をコンセプトに、各保育園の占用部と両園が自由に使える共用部を明確にゾーニングし、１枚の大きな屋根の下で２つの園が寄り添う家庭的な保育園を目指しました。

外観は白を基調としてシンプルなものとすることで、軒天の木材や両園をイメージした「若葉色」「秋葉色」のアクセントカラー、そして両園の活動が街並みに映え、生き生きとした表情を生むデザインとしました。

また、夜間保育を行う保育園として防犯性や照明計画にも配慮し、行灯のような明かりが優しい雰囲気をつくり、園を利用する親子だけでなく地域にも安心感を与える園舎を目指しました。

■建設地:長野市大字鶴賀緑町1594
■構造規模:鉄骨造2階建て、延べ1328.76㎡
■竣工年月:2020年4月

■設計
株式会社エーシーエ設計
取締役社長　小林宣範
〒381-0012 長野市柳原2360番地4　TEL026-296-8300

■施工
株式会社　岡谷組
代表取締役　野口　行敏
〒394-0029 岡谷市幸町6番6号　TEL.0266-23-5671

## 最優秀賞　小林古径記念美術館

吉田五十八が設計した日本画家小林古径の住宅を東京都大森から上越市に移築復原したのが約 20 年前の平成 13 年。本計画はその復原事業から美術館整備に至るまでの全体が構築されている。

古径の人間性から感じ取るものは「寡黙さ」である。美術館はその人柄を表すような多くを語らず控えめで端正な佇まいとし、その実体が主張しすぎないものとしている。雪国に見られる雁木を連続し、地域性や公園の場所性を意識した外観としている。作品鑑賞の場、作品制作の場、日常生活の場という「古径の世界」を一貫して展示鑑賞できる美術館としての価値を最大限に活かした全体構成としている。

東端の二ノ丸ホールは、「美術館の離れ」「庭園の東屋」のような寄棟の建築とし、四方向への眺望と多様な活用がしやすい空間としている。

■建設地:新潟県上越市本城町
■構造規模:鉄筋コンクリート造、一部 鉄骨造、一部 木造2階建て、延べ809.67㎡
■竣工:2020年

■設計・監理
株式会社　宮本忠長建築設計事務所
TADANAGA MIYAMOTO ARCHITECT & ASSOCIATES
代表取締役社長　宮本夏樹
長野市柳原1875番地1　TEL.026-241-5510

■建築工事　久保田・清水 共同企業体
久保田建設株式会社
代表取締役　久保田二郎
新潟県上越市大字辰尾新田1番地　TEL.025-524-4510

株式会社　清水組
代表取締役　清水恵一
新潟県上越市稲田3-1-3　TEL.025-523-2491

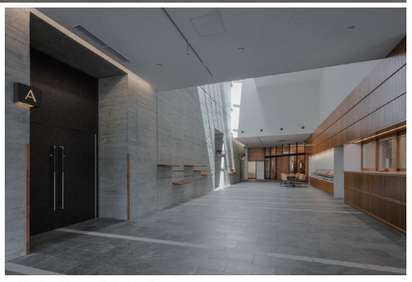
■電気設備工事
株式会社　東光クリエート
代表取締役社長　伴長門
新潟県上越市平成町570　TEL.025-524-1418

■機械設備工事
株式会社　井上商会
代表取締役　井上一則
新潟県上越市石橋1-7-29　TEL.025-543-4464

## 最優秀賞　池田町交流センター かえで

池田町交流センター『かえで』は、「町民それぞれが気軽に集い楽しみくつろぐ　居場所」として、目的がなくても気軽に訪れくつろぎ、人びとがふれ合える居場所として計画しました。また、町民の文化・芸術活動等、目的を持った活動一つ一つに対しても、充分な機能を果たすことを期待され、公民館ホール、子供閲覧室を持つ図書館、それに続く子供とゆっくり過ごせる親子交流室など多様な活動を受け入れ、ホール周囲のフリースペースには気軽な活動が可能な居場所を点在させました。フリースペースは、人と人をつなぎ、魅力ある近隣の地域資源である路地につながり、回遊性のある路地空間として、あるいは芸術文化祭の展示ギャラリーとして「かえで」における諸活動に重要な役割を果たし、街の居場所としてネットワークを形成しています。

連続して道路に面し街に開いたガラス面は、交流センターの内部と外部の街をつなぎ、ホールの山形の外壁面は切り立つ北アルプスの山肌に連なります。私たちは、自然に恵まれた池田町で、これからますます、人・まち・自然が一体となって人びとの心をつなぎそして心をひらき、お互いを育て合う池田町交流センター『かえで』が大きく育っていくことを願っています。



■建設地:北安曇郡池田町大字池田3336-1 外
■構造規模:鉄筋コンクリート造一部鉄骨造2階建て、延べ2,264.11㎡
■竣工年月:2019年7月

■設計　アーキディアック－小林建築設計事務所 JV
株式会社　アーキディアック
一級建築士事務所
建築 都市 環境 情報
代表取締役　児野登
松本市島立1132-25　TEL.0263-47-7766

小林建築設計事務所
KOBAYASHI ARCHITECT DESIGN OFFICE
代表　小林正芳
北安曇郡池田町会染4831-1TEL.0261-62-9392

■施工　傳刀組－小山組 JV
株式會社　傳刀組
代表取締役　傳刀宗久
大町市平7840　TEL.0261-22-0312

株式会社　小山組
代表取締役　小山勉
北安曇郡池田町池田2161　TEL.0261-62-3169

## 講　評

**小林古径記念美術館**

高田ゆかりの画家・小林古径が東京都大森に遺した自宅と画室は吉田五十八が設計したものでした。20年前から周到な移築復元により、五十八が探究した現代数寄屋と古径が求めた寡黙を是とする空間が高田に再現され、家々と庭との関係も再現されました。

今回付加された美術館は、高田城址公園という立地を意識して公園全体の連続性を重視し、連続するアプローチを雁木が受け止める構成となっています。高田城下町は、西から南にかけて峰々が連なっており、遠方に頂が見えます。平坦な城址公園にたつ小林古径記念美術館では、北信の山々の頂までの遠景を背景として視線が通り抜けていくとともに、人々が気軽に通り抜けていきます。

小林古径の生まれた上越市高田に移築復元された家と画室と新たに付加された美術館は、小林古径の魂の新たな里帰りともいえ、他方で、現代数奇屋を探求した吉田五十八のスタイルは城下町の中で期せずして山岳稜線という借景を手に入れることになった、といえます。

**池田町交流センター かえで**

南流する高瀬川の左岸に位置する池田町は山々に東と西が挟まれ、とりわけ北アルプスの峰々が見事です。ここでは、水の流れが清く早く、山岳稜線が荘厳で、豊かなコミュニティーが持続しています。そのような中、地域の人々の交流の場として「かえで」が模索されました。

自由に活用できる「かえで」は、世代間の交流を促すもので、特に未来を担う子どもや若者を育む場として完成しました。完成に至るまで、設計の詳細に至るワークショップがたび重ねて開催されました。その結果、複合的な施設が担うべき空間と機能が緻密に統合されていくとともに、様々な居場所が建築の内外に点在することになり、北アルプスの山々と呼応する外観が成立しました。

ワークショップの結果、不特定多数が利用する公民館や図書館という機能が練り込まれたという以上に、地域の人々が利用する建築物が個々人の尊厳に呼応するものとして形成されるに至りました。ホールの外壁が切り立つ山肌と呼応し、白壁が残雪へと人々のイメージを誘います。

## 総　評

令和３年度建築作品選考委員会委員長
土本 俊和（信州大学工学部教授）

令和3年4月9日に建築作品選考委員会を長水建設会館で開催しました。寄せられた建築作品は計5点で、一般建築部門（延面積が千平米を超え1万平米を以下の建築物）が2点、小規模建築部門（延面積が千平米以下の建築、戸建住宅を含む）が3点でした。また、長野県内が四点で、長野市が2点、池田町が1点、白馬村が1点でした。県外のものとして新潟県上越市が1点でした。事務所協会の建築活動は全国に及んでいるとの理解から、対象地区は、それぞれの都道府県に限られてはおらず、日本国内と規定されています。

対象地区が全国に及んでいるとはいえ、寄せられた5点は、いずれも、首都圏や大都市とは離れた地方にたてられたもので、地域性を深く練り込んだ完成度の高いものでした。地域性を深く練り込んだという点で注目すべき側面は、作品の背後にある山岳に対するスタイルでした。このスタイルは、建築物がたつ土地だけを考えると、フランク・ロイド・ライトのプレーリー・スタイル（草原様式）とは対照的です。しかし、寄せられた建築作品は、プレーリー・スタイルのように高さを抑え、水平方向へ広がっていく姿を追求しており、ライトのスタイルに近しいものでした。そもそもライトが日本の建築様式から影響を受けていた点をふりかえれば、高さを抑え、水平方向へ広がっていく姿を追求するのは、元来は我々日本人の姿勢です。とりわけ、建築作品の背後にある山岳を強く意識するスタイルは、信州で活動する建築士の最も得意とするものです。

建築の用途として、美術館が1点、交流センターが1点、保育園が2点、新しいタイプの宿泊施設が1点でした。全体として、公共性の高い作品が数多く寄せられました。他方、利用者に目を向けると、新しいタイプの宿泊施設が遠来の利用者を想定し、交流センター1点と保育園2点が近隣の利用者を想定し、美術館1点が近隣と遠来の双方を想定していました。遠来から利用者を招く場合も、近隣での利用者を促す場合も、建築物がたつ場所が持っている場所性が地域の中で捉えられていることが大切であり、さらにそれが建築作品の内外に素直に体現されていることが大切です。場所性と地域性を体現している5作品は、地域の素顔となる表情をこれから人々に見せていくことでしょう。

日事連建築賞の審査に挑む最優秀賞の2点は、山岳を背後に持つ遠方から見られる姿とともに、遠方の山岳を建築内側から見通す数々の視線が空間の中によく整えられているので、中部山岳地帯の北部にたつ新しい建築として、評価されていくことを期待しております。

選考会の様子